

## ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 COVID-19 パンデミック期間における急性胆嚢炎管理についての国際多施設共同監査 An international multi-centre appraisal of the management of acute CHOLEcystitis during the COVID-19 pandemic: The CHOLECOVID Audit』

### 【研究組織】

主要研究施設: Manchester University NHS Foundation Trust, UK (英国、マンチェスター大学)

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 外科 職位・氏名 准教授 浅井 浩司

### 【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院外科では、COVID-19 パンデミック前後における急性胆嚢炎の治療方針、治療成績に関する世界的な多施設症例集積研究に参加いたします。

この研究で得られる成果は、COVID パンデミック時代における急性胆嚢炎の治療方針決定などに役立つことが期待されます。

2020年7月30日の時点で、57か国、393の施設が登録されています ([https://omarkouli.shinyapps.io/CHOLECOVID\\_Hospitals/](https://omarkouli.shinyapps.io/CHOLECOVID_Hospitals/))。日本からも既に4施設が登録されております。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター(大橋病院)倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者: 2019年9月12日～2020年5月12日までに東邦大学医療センター大橋病院において、急性胆嚢炎の治療のために入院した方20例を対象としています。

方法: 国際肝胆膵外科学会(IHPBA)に所属し、COVID-19に対応している施設が参加対象。

診療録から抽出したデータを解析します。

Manchester大学の保有するREDCapシステムに入力します。登録データは論文出版後、5年間保管され、その後、Manchester大学で責任を持って削除されます。

資金源: 資金の援助は一切ございません(症例登録を行っても当院への研究費の支払いもございません)。

### 【研究に用いられる試料・情報】

- ・患者因子: 年齢、性別、BMI、併存疾患、など
- ・初診時因子: 採血結果、画像検査結果、など
- ・治療因子: 胆嚢ドレナージの有無、手術術式、など
- ・予後因子: 術後合併症、呼吸器合併症、30日以内術死、など
- ・COVID-19関連: 経過中におけるCOVID-19感染の有無、COVID-19検査の有無、組織体制、など

### 【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 外科

研究代表医師: 浅井 浩司 役職: 准教授

**【個人情報について】**

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果は、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告される可能性があります。個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

**【連絡先および担当者】**

東邦大学医療センター大橋病院外科

職位・氏名 准教授 浅井 浩司

電話 03-3468-1251 内線 7176